

第二講 一元的なオリエント像

課題：オクシデント（西方）と対比されるオリエント（東方）とはどのような世界を意味しているのか。

レポート講評

オリエントの政治・社会体制と文化基盤としての神権政治
政治・社会組織の前提となり文化を構築する大河と灌漑農業
歴史的評価としての最古都市文明形成
空間的概念としてのオリエント・・・中近東に限定されるのか？
時間概念としてのオリエント・・・前四千年紀（都市文明の形成）～前
4世紀（アケメネス朝の滅亡・アレクサンドロス大王の遠征）

西アジアという概念

前8～7世紀のアッシリアの asu（日の出・東）
ギリシア語：Asu+ia>Asia
西アジア・南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジア・北アジア
・・・アジアの中の地理的な位置・文化的近似性

近東（中近東）

19世紀イギリスの視点
クリミア戦争
第二次世界大戦中の便宜的区分：Near East 近東・Far East 極東
文化的近似性・・・（アフガニスタン～）イラン～イラク～シリア
～トルコ（～エジプト～モロッコ）

オリエント

イスタンブル基準
東洋という意味
中国や日本も含む
古代+オリエントで空間的に限定

オリエンタリズム

エドワード・サイード（板垣雄三ほか訳）『オリエンタリズム』上下、
平凡社、1993年。

西洋人が最初に知ったアジア（古典的教養の世界）

旧約聖書

ギリシア・ローマの古典（ヘロドトスなど）

対立と脅威のアジア（恐れを抱かせる世界）

ペルシア戦争

アラブの進出

十字軍

オスマントルコとの対立

植民地化されるアジア（憐憫、優越感そして軽蔑の対象としての世界）

近代の経験

軍事的弱体化

カピチュレーションによる関税自主権の喪失

工業製品の輸入と農場や鉱山、鉄道、港湾への投資

西洋諸国の軍隊や官吏の駐屯

植民地省による統治

腐敗

非衛生

教養の欠如

貧困

迷信と非合理性

発展から取り残されたアジア（停滞した世界）

産業の後進性

女性の地位

民主主義と自由の未発達

過去の偉大な文明遺産と後進的な現代の文化水準

サイードが紹介する

英国人の公平性とエジプト人管理の腐敗

英国人の支配を受ける方が腐敗し墮落した自国民官吏の支配を受けるより幸せ
そのようなオリエンタリズムの原点